



きずな

K I Z U N A



まなびと人権

高めよう 人権意識



② のじぎく文芸賞 詩部門(一般の部) 優秀賞「夕焼け」
尾崎 順子さん(宝塚市)

③ 「パーソンポジティビティで互いに認め合い高め合える集団に」
鹿嶋 真弓さん(高知大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授)

④ 「オリンピック・パラリンピックと人権」
舛本 直文さん(首都大学東京オープンユニバーシティ 特任教授)

⑤ 「ハンセン病問題を未来に生かすワークキャンプ『ぼらばん』」
松岡 広路さん(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授)

⑥ 「ウレシパ・プロジェクトがめざすもの」
本田 優子さん(札幌大学 副学長)

⑦ ふれあいサロン

⑧ 情報ぶらざ



兵庫県マスコット
はばタン

人権文化が定着した社会づくりを進めるためには、まず私たち一人ひとりが身の回りの出来事を人権尊重の視点からとらえ、学んでいくことが大切です。そうして得た気づきをもとに人権意識を高め、家庭や学校、地域、職場での具体的な行動に結び付けていきましょう。

のじぎく文芸賞 詩部門

(一般の部) 優秀賞

おざき じゅんこ
尾崎 順子さん(宝塚市)

「夕焼け」

思い出は 夕焼け？

修学旅行の思い出だよ

首里城へは 行かなかったの

美ら海水族館は よかっただろう

どこもあんまり覚えていないって？

J

きみは沖繩へ 夕焼けを見に行ったの？

高台のきみの家なら

瀬戸内へ沈む夕陽が よく見えるだろう

なのに

夕焼けが きみの思い出？

わかってるやろう

おれが一人でどこへも行けへんってこと

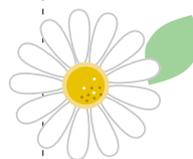
車椅子に体を縛りつけて

家と 学校と この施設を

来る日も来る日も 行ったり来たり

おれの見えてきた夕焼けは

送迎車の遮光ガラスにうつる



いちまいの赤黒い空やったんや

夕焼けが

あんなにでかくて

あんなに赤かったなんて

知らへんかったよ

真菜田岬のキャンプ場で

おれは夕焼けに

車椅子ごとと梁まっていたんや

おれは夕焼けに

車椅子ごとと吸い込まれていったんや

修学旅行で おれ

ほんまの夕焼け はじめて見た

十五年かけて

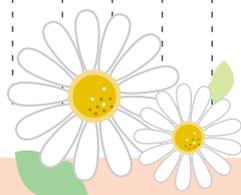
最高の夕焼けに 出会ったんや

修学旅行の思い出は 夕焼け

わかったよ J

それは...

きみらしくて いいよなあ



～のじぎく文芸賞作品集講評より～(抜粋)

沖繩に修学旅行に行った生徒(J)に一番の思い出を聞くと、「夕焼け」だと言う。首里城でも美ら海水族館でもなく、彼の自宅から毎日眺められるはずの夕陽だということです。家と学校と施設を毎日行ったり来たりしてきた彼にとっての夕焼けは「送迎車の遮光ガラスにうつる／いちまいの赤黒い空やったんや」。作者(教師)はその言葉に胸を突かれます。生徒に身近に接していたにもかかわらず、彼の思い出に気づけなかったことに強い悔いを感じます。(中略)

「人に寄り添う」ということ。とりわけ、社会的な立場の弱い人に寄り添うことの意味をこの詩は教えてくれます。

のじぎく文芸賞審査委員、詩人・児童文学者 時里二郎さん

パースンポジティブで 互いに認め合い高め合える集団に

よい集団は人を癒しますが、よくない集団は人を傷つけます。

よい集団とは、互いに認め合い高め合える集団です。そこには、**パースンポジティブ**がはたらいています。パースンポジティブとは、人のよいところを見つめる傾向のことです。人のよいところを見つめることが得意な人は、自分自身も成長します。なぜなら、人のよいところはよきモデルとなり、自ら学ぶことが出来るからです。そして、その人のまわりは自然とパースンポジティブが広がり、いつの間にかその空気で満たされ、気づくと互いに認め合い高め合える集団が生まれます。

一方、**よくない集団**では、**引き下げの心理**がはたらいています。引き下げの心理とは、足の引つ張り合いのことです。足の引つ張り合いをする集団では人は成長できません。なぜなら、よいことや頑張っていることが、否定されるからです。自分より優秀な人を見ると、つい批判したくなってしまふ傾向の人がいます。そういう傾向の人は、足を引つ張ること、自分のプライドを守ろうとするのです。人のやることなすことにケチをつけて引きずり下ろす

ことで、自身の劣等感を消そうとするのです。この引き下げの心理は、無意識にはたらくため、実にやっかいです。人の悪口を言ったり、人をバカにしたり…そのため、集団では、たつたひとりの引き下げの心理がいじめにつながることもあるのです。

これを防ぐには、自尊心を高めるのが一番です。自尊心とは、自分に誇りや自信を持ち、自分を大切に思う感情のことです。残念なことに、日本の子どもは、国際的に見ても自尊心が低いと言われています。また、自尊心を高めるための特効薬はありません。パースンポジティブの空気で満たされた日々の生活の中で、じわじわと漢方薬のように効いてくるものなのです。特に、自分にとつて身近な大切な人(例えば家族であったり、友だちであったり)からの一言は、とても大きな影響力を持つのです。そして、いつでもどんなときにも、自分のことを気にかけてくれる人、見守ってくれる人の存在は、大きな力となります。

私たちにできることから始めてみませんか。近くにおいても、遠く離れていても。

プロフィール

都内の公立中学校で理科の教師として勤務。その後、神奈川県逗子市教育研究所の所長を経て、現在に至る。荒れた学級、学年が教師のはたらきかけを通して、あたたかみのある学級集団、学年集団へと成長する過程を目の当たりにしてきた。その取り組みの一部が、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」(2007年4月放送)で紹介された。



かしま
まゆみ
鹿嶋真弓さん

高知大学教育学部附属
教育実践総合センター 准教授

オリンピック・パラリンピックと人権



首都大学東京オープンユニバーシティ
特任教授

ますもと なおふみ
舛本直文さん

「オリンピック・パラリンピック^{※1}は4年に一度世界一を決めるスポーツの祭典である」と思っている人には、この両大会が人権と密接に結びついているとは想像できないでしょう。

平和思想としてのオリンピックピズム

オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であるだけでなく文化の祭典でもあります。

それは、「スポーツを文化・教育と融合させて心身の調和のとれた人間を育成し、ひいては平和な世界の構築に寄与すること」というクーベルタン^{※2}が唱えたオリンピックピズムの理想に則っているからです。つまり、スポーツだけではなく文化的素養も身につけて、お互いに知り合い、フェアにプレーして友情を育み、平和な世界を実現することが究極の目標となっています。

ここでいう平和な世界とは、単に紛争や戦争がない社会のことではありません。差別や搾取のない、自己のアイデンティティや自由が守られ、人権が保障された社会のことです。また、オリンピックの基本が定められ

たIOCの「オリンピック憲章」では「スポーツをすることは人権の一つである」とまで謳っています。さらに「オリンピックピズムの根本原則」第6項では、人種、性別、性的指向などにかかわらず、いかなる種類の差別も許さないと定めているのです。

オリンピックピズムと人権

このようにオリンピック・パラリンピックがめざす教育思想であり、平和思想でもあるオリンピックピズムという考え方には、人権保護の考えが深く関わっています。このオリンピックピズムに基づいてIOCは様々なオリンピックピズム・ムーブメント^{※3}を展開しています。その中には男女平等、スポーツ・フォア・オール、差別撤廃、反ドーピング、環境保護、アスリートの将来保証なども含まれているのです。

ヒューマン・レガシー

しかしながら、オリンピックの歴史を振り返ると人権侵害に当たる問題も起きているのも事実です。女性の参加問題、人種差別、障害のある人の参加問題など、これまでに多くの問題がありました。最近では性的マイノリティや難民問題も生じています。2020(平成

32年東京大会では、国を挙げて多様性を大切にし、共生社会を実現しようとしています。このような社会に貢献できる人を私は「ヒューマン・レガシー」と呼びたいと思います。メダル至上主義だけでなく、是非ともこのようなレガシーが残されていくように願います。

※1 パラリンピックは「もう一つのオリンピック」を意味する Paralympic と Olympic を合わせた造語。国際パラリンピック委員会は「spinity olympic」（躍動前進する精神）をモットーとしている。
※2 近代オリンピックの父と呼ばれる。オリンピックの原型とともに、五輪のシンボルマークも考案。
※3 オリンピズムを推し進める様々な活動のこと。

プロフィール



筑波大学、東京都立大学(現首都大学東京)を経て、2007(平成19)年から首都大学東京教授。2016(平成28)年3月定年退職し同年4月1日から現職。専門はスポーツ哲学、オリンピック研究。NPO日本オリンピック・アカデミー理事及び研究委員会委員長、(公財)東京都人権啓発センター評議員、稲城市いなぎにカレッジプロフェッサー講座委員長等を兼ねる。

ハンセン病問題を未来に生かす ワークキャンプ「ぼらばん」

ご縁をつむぐワークキャンプ方式

大学生・高校生などの若者とともに、国立ハンセン病療養所邑久光明園(岡山県瀬戸内市「長島」)でワークキャンプ「ぼらばん」※を始めて10年になります。ワークキャンプとは、肉体労働を中心とする集団型・宿泊型のボランティア活動です。ハンセン病患者の差別・隔離の歴史との中で生き抜いてきた島の人々の苦労や努力を、頭の理解だけではなく、労働・活動を通して肌で感じ、そこから新たな学びや活動への意欲が生まれることをねらいとします。
生まれてきた多様な活動
2007(平成19)年、事業開始当初は、島と島外の境界線を意識した海岸清掃が中心でした。今では、多様化し、

きずなトピック

神戸大学大学院
人間発達環境学研究所 教授

まつ おか こう じ
松岡 広路 さん

島を開かれた空間に変える「つどいの広場づくり」や、園の陶芸クラブと協力して邑久光明園のマスケット「こみよたん」の像を製作し、島に配置する「こみよたん玉プロジェクト」など、多くの活動が生まれています。
若者の力
ぼらばんの主役は若者たちです。私をはじめ他大学の教員や社会人メンバーも協力しますが、年7、8回のワークキャンプ(3日〜7日/回)を、若者たちが自ら企画運営します。「なぜ、この地でワークキャンプをするのか?」「何をすることが入所者の思いに応えつつ、邑久光明園の未来を切り開くことになるのか?」「こうした問いを若者自らが考えつつ、入所者自治会や園職員と相談して事業を進めます。
大好評の「たこ焼き交流会」も若者たちの発案です。邑久光明園の前身は、大阪市西淀川の中洲に設置された「第三区連合府県立外島保養院」です。1936(昭和11)年の室戸台風による甚大な被害の後、「長島」に移設されたのです。そのため、入所者は関西出身者



海岸に漂着した大木を運ぶ若者

が多く、たこ焼きを「懐かしいね」といつて喜んでくださいます。
過去・現在・未来をつなぐ
邑久光明園は、2016(平成28)年12月現在、入所者数115名、平均年齢86才、最高齢者104才、最年少者68才の超高齢コミュニティです。そのため、交流のなかで学びを深めることはむしろ難しいのですが、ワークを通して、島とのご縁を結び、過去・現在・未来をつなぐ学びを生み出そうとしています。ワークキャンプ方式は、面白い。関心を持たれた方は、下記までご連絡いただき、ぜひ、ご参加、ご協力ください。

※新しいボランティアの世界を作るという意味を込めて命名



連絡先

神戸大学ヒューマン・コミュニティ
創成研究センター

TEL 078 (803) 7970

メール mkoji@kobe-u.ac.jp

プロフィール

1960(昭和35)年、広島県生まれ。1996(平成8)年、東京大学教育学研究科博士課程卒。専門は福祉教育・社会教育学。ワークキャンプ「ぼらばん」主宰。現在、福祉・環境・開発・人権を総合化したESD(持続可能な開発のための教育)に熱を入れている。

新着図書紹介

ほんわか介護



著者 城戸真亜子

発行所 集英社文庫

突然始まった夫の母親との暮らしは、戸惑いと混乱だらけだったと城戸さんは振り返ります。当時認知症の母親がよく言った言葉は「知らなかった」「初めて聞いた」。城戸さんは、記憶が積み重なることのない母親がいつも仲間外れにされていると感じ、落ち込んでいることに気づきました。
そこで思い立ったのが、日記を書くこと。何気ない日々の出来事のほか、母親がうれしいと感じることをイラストを交えて書き綴りました。母親はその日から毎日、繰り返し、繰り返し、この日記を読んで記憶を確かめてくれるようになったそうです。
本誌では、認知症の母親と暮らす中で、洋画家でもある著者が得た気づきや感じたことを日記のイラストとともに紹介しています。読み終わった後に、ほんのりとした、あたたかい気持ちになれる一冊です。

きずなトピック

札幌大学 副学長

ほんだ ゆうこ
本田 優子さん



プロフィール

1957(昭和32)年金沢市生まれ。北海道大学を卒業後、アイヌの伝統文化が息づく集落として知られる平取町二風谷に移り住む。11年間、萱野茂氏(二風谷アイヌ文化資料館館長:当時)の助手としてアイヌ語辞典編纂に携わるとともに、二風谷アイヌ語教室子ども部講師を務める。2005(平成17)年、札幌大学に着任。2011(平成23)年から現職。著書に「二つの風の谷-アイヌコタンでの日々-」など



ウレシパ・プロジェクトがめざすもの

アイヌ民族は、北海道及びその近隣地域で独自の文化を育んできた日本の先住民族です。周囲のあらゆるカムイ(神)に感謝と畏敬の念を持ち、アイヌ(人間)としての礼節を持って生きるといふアイヌの世界観には、学ぶべきことがぎゅっしり詰まっています。

ところが主に明治以降、日本政府がおこなった同化政策により、アイヌ民族の日常からアイヌ語をはじめ伝統的世界観や習俗の多くが消え去りました。現在、アイヌ語で会話している人は一人もいません。驚くほど豊かな物語世界が展開しているにもかかわらず、アイヌの子どものほとんどは物語の一編すら知りません。一般の学校教育しか受けていませんから、自民族の歴史について学ぶ機会もありません。

アイヌ民族は長らく激しい差別に苦しんできましたが、最近ほむしろ「あなたはアイヌなのだから誇りを持って立派に生きろ」という無意識の圧力がアイヌの人々を息苦しくさせているように感じます。学ぶ機会が与えられていないのに、どうやって誇りを持っていくのでしょうか。

なによりも学ぶ場が必要だと考えた私は、2010(平成22)年、札幌大学に「ウレシパ・プロジェクト」を立ち上げました。ウレシパとは、「育てあう」という意味のアイヌ語です。アイヌの若者たちに奨学金を給付して大学進学を拓くとともに、アイヌ文化学習の機会を提供する。また、彼らを企業(ウレシパ・カンパニー)と共に育て、就職の道にもつなげるというものです。プロジェクトの活動母体であるウ

レシパクラブの創設から7年。第1期ウレシパ奨学生として社会人入学した女性は、ダントツ1番の成績を収め、卒業式では自分の縫った民族衣装を身にまとい、総代として学長から卒業証書を受け取りました。ウレシパ・カンパニーに入社し活躍している卒業生もいます。これから

も進化し続けるウレシパ・プロジェクトに、皆様のご支援をお願いいたします。

アイヌの方々のための
相談事業を
 実施します!

無料

公益財団法人 人権教育啓発推進センター

(公財)人権教育啓発推進センターでは、アイヌの方々の悩みをお受けするフリーダイヤルを開設しています。嫌がらせ、差別、プライバシー侵害などのご相談もお受けします。ご希望によりアイヌの相談員が応じます。

アイヌの方々のための相談専用フリーダイヤル

0120-771-208

- 相談無料
- 匿名可
- 秘密厳守

受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
 ※祝日、12月29日～1月3日を除く
 ※来訪によるご相談もお受けします。
 月曜日～金曜日 午後1時～午後5時(要予約)



ふれあいサロン

読者からのお便り

12月号の表紙の絵、7頁のサンタクロースの絵もかわいくて、読みたくなりました。車いすに乗る子どもも明るい表情で、楽しくなります。

事故により、義手の看護師になり、ロンドン・パラリンピックの競泳日本代表の伊藤さん。すごい精神力、本当にあきらめない心で、すばらしい生きざまを尊敬します。

✉ (神戸市 井上隆史さん)

12月号は、障害について考えさせられる内容でした。

伊藤真波さんの記事は、特に印象的でした。障害は特別なものではなく、身近な問題なのですね。ある日突然、自分の身に降りかかることもある。障害のある人もない人も、共に生きやすい社会の実現に向け、何ができるのか。私なりに考えていこうと思います。

✉ (明石市 羅漢果さん)

役場にて、兵庫県発行の「きずな12月号」を見ました。障害平等研修フォーラム久野さんの記事で、車いすの女性が指をさしているのに付き添いの男性にたずねる店員さんの対応、考えさせられました。

✉ (多可郡 三村勝也さん)



問 A~Nの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう？

1	D	2		3	L	4	K	5	
6	A						E		
				7	N			M	
8	B								
9	C			10				11	I
			12	H	F			13	
15					16	J			G

〇〇 たてのカギ

1. 丈夫でたくましい様子。「〇〇な人」
2. 会社等で職業体験をする実習生
3. 滋養が高く、「海のミルク」と言われる冬の味覚
4. 2月上旬の宵に南中する星座
5. スポーツなどで仲間が失敗した時にはこう言って励ましましょう
8. 真っ白くなった冬の道路
10. 船が安全に停泊できるようにしたところ。神戸は日本有数の〇〇町として発展してきました
11. 「〇〇は友を呼ぶ」
14. 敬意を露骨にあらわすことを「〇〇をむく」と言います

〇〇 よこのカギ

1. 人が感じる暑さ寒さの感覚を、気温に風速、湿度などの要素を加味して数値で表したもの
6. 勇気を奮い起こすこと。「〇〇〇を促す」
7. 撮影や展示などに用いる立体模型。愛好家が多い鉄道模型が有名です
8. ヨーロッパ連合(EU)の単一通貨
9. お金のこと。「〇〇一封」
10. 両目を手で隠し、物を見るまいとしています。「〇〇〇、聞かざる、言わざる」
12. 外観も美しく内容も充実していることを「〇〇も実もある」と表現します
13. 一緒に行動している人と〇〇がぴったり合えば嬉しいですね
15. 「三人寄れば文殊の〇〇」
16. 「早起きは三文の〇〇」

12月号の答え クリスマスプレゼント

投稿&クロスワードで「チューブdeストレッチ」をプレゼント! //

「読者からのお便り」の投稿掲載者(平成29年4月号)とクロスワードの正解者(抽選で10名)に、「チューブdeストレッチ」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見や感想、人々とのふれあいを通じた心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。
*投稿はペンネームの使用も可能です。*当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法 締め切り はがきか、FAX、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用の場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。3月3日(金)締め切り(必着)

応募先 〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号 県立のじく会館内
(公財)兵庫県人権啓発協会 「きずな」ふれあいサロン係
TEL:078(242)5355 FAX:078(242)5360 Eメール:info@hyogo-jinken.or.jp
*応募者および投稿者の個人情報は、管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。



「人権のつどい」を開催

昨年12月2日(金)に平成28年度「人権のつどい」を開催しました。この行事は「人権文化をすすめる県民運動」を一層推進するために行っているものです。この日、兵庫県公館に約470人が集い、人権について考えました。

「のじぎく文芸賞」の表彰式に始まり、ケニア伝統弦楽器ニャティティ奏者で、日本ケニア文化親善大使のアニャンゴさんによる、エキゾチックな演奏と素敵な歌声が会場に広がりました。講演では、ゴールボール全日本女子チーム主将で、ロンドン・パラリンピック金メダリストの浦田理恵さんが登壇されました。参加者は、急な視力低下で教師になる夢を諦めざるを得なかった経験や、一度しかない人生を輝かせたいと夢を追いかけている浦田さんならではの話に聞き入りました。



アフリカの音楽に魅了され、単身ケニア奥地に入り、現地の人と生活を共にする中で相互の理解を深めつつ修業を積んだアニャンゴさん。世界初の女性ニャティティ奏者です。



金メダルを手に、学生時代は運動が得意ではなかったと話す浦田さん。ゴールボールを使って参加者が視覚障害を体験できる場面もありました。

イベントガイド

その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

<p>ハンセン病問題に関するシンポジウム</p>	<p>日時 2月4日(土) 13:00~16:30(開場12:30~) 場所 神戸文化ホール「中ホール」 <small>※神戸市営地下鉄「大倉山」駅より徒歩1分</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催者代表挨拶 厚生労働大臣 兵庫県知事 ・パネルディスカッション ・演劇「光りの扉を開けて」(NPO法人HIV人権ネットワーク沖縄) ・フィナーレ <p>参加者全員による大合唱「世界に一つだけの花」※申込不要</p>	<p>問い合わせ 兵庫県健康福祉部 疾病対策課感染症班 TEL 078(341)7711(代表) FAX 078(362)9474</p>
<p>加東市 人権を考える 市民のつどい</p>	<p>日時 2月11日(土)13:30~ 場所 加東市東条文化会館 <small>※中国自動車道ひょうご東条インターチェンジから車で約5分</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学生(4名)による人権作文の発表 ・人権学習実践発表(3団体:学校園と地域と企業の取組) <p>総括助言及び提言 有正省三さん(兵庫県人権教育研究協議会会長)</p>	<p>問い合わせ 加東市人権教育課 TEL 0795(43)0544 FAX 0795(43)0559</p>

人権に関する川柳

テーマ 人権の気づき

人権を
知ることこそが
第一歩

(明石市 枯山水さん)

ハーフ
half
タイム
time

今月号は人権に関する学びの大切さを感じていただけるような編集を心掛けました。そのために、様々な分野でご活躍されている方々にご協力いただいております。編集を通じて自分に新しい視点が変わったり、「なるほど、そういうことか」と新しく気付いたりすることが多くありました。

人権課題を解決するためには、その根底にあるものは何かを考え、人権の視点から見つめ直すことが大切だと言われます。無理解や無関心から生まれる偏見が人権課題の解決を妨げていることも多いと思います。人権文化をすすめるために私たちにできることは、まず課題を正しく知ることだと再認識しました。

(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
 TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会

検索

2017(平成29)年2月発行